

「とくしま目安箱」等に寄せられた建設的な意見・提言（全 11 件）

● 「とくしま目安箱」に寄せられた建設的な意見・提言（4 件）

提言	
テーマ	概要
新知事に期待 タイのみならず台湾・韓国のお客さんの取り込み	海外からの旅客が来る近県の空港に囲まれている徳島においては、既存隣県の観光客の徳島誘致を目指す事が大事。春や秋の阿波踊りは海外のお客さんに楽しんでもらえる仕組みを設けるべき。市町村とタイの交流支援、韓国人・台湾人の誘致、こうしたエリアのインフルエンサーの誘致。実証実験として、高松空港から美馬市・三好市への海外観光客向け無料バスの実施。タイや台湾のお客さん向けに剣山登山やスキー体験も、四国では徳島ならではの。
海外クルーズ船に 実は人気の徳島小松島港	2019年のクルーズ情報サイトにおける、世界のクルーズ船寄港地ランキングで、徳島小松島港は函館港と並び23位と、国内では第2位の人気となった。 徳島のように宿泊施設が少ないエリアでは、クルーズ船による観光客は非常に有効である。寄港情報を県内で共有し、寄港場では阿波踊りだけでなく着付体験やお茶の席、キッチンカーの誘致・特産品や土産物を買えるブース等でクルーズ客が港でも楽しめるようにするとともに、クルーズ船寄港のタイミングで、中心市街地で開かれる徳島マルシェやマチアソビが開催されれば、中心市街地にも誘客が見込める。
車がなくても生活 できる県に	公共交通機関を充実させて、車がなくても生活ができるようにして欲しい。仕事も買物もどこへ行くのも車がないと行けないというのは本当に不便。高齢者の方は特に運転に不安な方が多く、今の徳島では車がないと生活が立ち行かない。また、免許のない学生も行動範囲が狭まる。県外から移住を検討される方も、車を持たなければ生活ができないというのは不便だ。
教育現場でのSDGs	教育現場でもSDGsを小学校高学年ぐらいから教えていると聞かすが、教育現場で発生したゴミのリサイクルなどを積極的に行っているのだろうか。案内用紙をメール配信にするなど、紙の使用を減らすことも重要であるし、資源ゴミを細かく分類し、リサイクルに回すことで、可燃ごみも減るのではないだろうか。

●「今これ！とくしまボックス」に寄せられた建設的な意見・提言（7件）

提言	
テーマ	概要
リカレント教育	企業・官公署・大学等の全ての組織において、40歳代以上の「学び直し」や技術再習得を行わないといけない切実な状況。古い知識で若い世代や他の組織からの有効な提案をすべて潰してしまう。現在の生涯学習指標値のようなものではなく、大学・高専と連携したしっかりとしたリカレントプログラムを、数は少なくとも創出すべき。
学校教育	これからの若者にとっては、ITや先進技術の理解又は習得が必須となってくる。県のGIGAスクール構想は、若者がITや先進技術に触れる機会であるため、今後も押し進めていただきたい。学校教育は与えられる学びが圧倒的に多いと感じるので、積極的かつ自発的な学習を促すため、「自分が学びたいことを探し、自分の力で学ぶ時間」を創出するべきであると感じる。
観光誘客	徳島県はここ数年、宿泊者数最下位だったということで、その理由の一つとして考えられるのは、魅力的な宿泊施設や宿泊体験企画がないこと。旅の目的自体を「宿泊場所での遊びや体験」にする施策や事業を展開してはどうか。例えば、おしゃれなグランピング施設の誘致や、非日常的なお寺での宿坊体験企画など。
「新たな文化」によるにぎわい創出	とくしまLEDデジタルアートフェスティバルの頃と比べて、近年のLEDデジタルアートイベントは規模も小さく、PRも不十分ではないか。経済効果を発生させてこそそのイベント開催だと思うので、イベント開催することに意義がある、というような現在のあり方は疑問。アートイベントで観光客の集客を目指すのであれば、他県の成功例を研究し、徳島県ならではのあり方を考えるべき。
本社機能の誘致	「本社機能の誘致」については、登記を移すだけでは、雇用の増加というメリットが得られない。本社機能にこだわりすぎず、まずは事業所を開設してもらって、県民を雇用してもらうというスタンスの方が良いのではないかと考える。
地方創生	これからの仕事・産業の芽は事業所誘致から「知識誘致」に大きく変わっていく。現行の指標値の「本社機能誘致」のような形から、コワーキングスペースやリビングラボ・イノベーションラボのような、多様な知識・技術人材を集める「知識集約拠点」の整備・誘致に力を入れていくとよいのではないかと考える。
移住交流拡大	徳島に住みたいと思わせる魅力が必要。アニメやNHKの朝ドラ等で舞台に取り上げてもらうよう働きかける。アニメだけでなく、農業大学校を中心とした農業専門家の街、徳島大学を中心とした最新医療関係者の街、鳴門教育大学を中心とした教育者の街など、専門的なオタクのスマートシティを作り、そこで住めば、最先端の知識や情報を持つ人と関わることができるようにすれば、移住する人が増えるのではないかと考える。